

山形県「未来に伝える山形の宝」事業

=うつくしい

第15号

うづぐすえ

令和7年3月

東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト委員会

発行：東北文教大学 地域連携

ボランティアセンター



<2024年度実践報告>

東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト

東北文教大学・南山形地区創生プロジェクトとは、南山形に根付く文化財（文化資源）を積極活用した地域振興策として、大学と南山形地区がタッグを組み、新しいかたちの地域連携を目指すことを目的として立ち上げられたプロジェクトです。本学の学生・教職員および地域のプロジェクト委員・協力委員と共に、具体的に5つの実践プランに分かれて活動しております。本プロジェクトは、2016年度（平成28）から本格的に開始し、新型コロナ禍を経て、2023年度（令和5）から再始動しました。

実践プラン1・2 「2万年の歩みを刻む南山形をしる・楽しむ」活動

南山形周遊バスツアーを実施しました！

2024年（令和6）10月5日（土）、野外ミュージアム南山形周遊バスツアーを実施しました。今回は、午前中に須川の埋没林、甲箭神社、津金沢の大杉、オサヤジ・愛染神社、松原神明神社のコースを巡り、みはらしの丘の社務所をお借りして皆さんで昼食をとりました。昼食後は、おおかみ石、長秀寺を巡り、最後に円龍寺を見学しました。円龍寺では、普段中には入れませんが、今回は特別に入らせていただき、円龍寺についてご説明いただきながら、継ぎ目のない「枕箱」の実物をご披露いただいたり、円龍寺の七不思議である「おかぐら石」なども見学させていただきました。当日は15名の方にご参加いただき、本プロジェクト委員の横沢氏や三宅氏から講師としてガイドしていただきました。参加された方々は、ほとんどが南山形地区の方々でしたが、初めて見るものや知ることが多く、地域の理解がさらに深まったようでした。

今後とも老若男女問わず多くの方々にご参加いただき、歴史的遺産に触れながら地域の魅力を楽しんでいただければと思います。



須川の埋没林



甲箭神社

実践プラン3 南山形地区を知る DVDの作成

DVD「氷河期の埋没林」上映会を山形県立図書館にて開催



上映会は2024年（令和6）10月5日（土）、山形県立図書館1階のアクティブラーニングルームにて午前10時～12時と午後1時～3時の間にそれぞれ3回ずつ合計6回開催されました。参加者は合計で38名でした。上映会の告知チラシをご覧になった東北芸術工科大学歴史遺産学科の准教授・佐藤祐輔氏からお電話をいただき、「この上映会は、山形の文化財を知ってもらう絶好の機会である」との感想を頂戴しました。同時に、学生向けの授業で使用したいのご要望もあり、DVDをお貸しすることとなりました。佐藤氏は、昨年の3月まで仙台市の「地底の森ミュージアム」で勤務されていたご経歴から、埋没林に対して特に強い関心を持たれており、この取り組みに対しても高い興味を示してくださいました。

実践プラン4 南山形地区再発見の「講座」開設

< 第1回講座 >

講座1 講演「山形のまちとイザベラ・バードpart2」

2024年（令和6）9月21日（土）「南山形再発見」講座1として、南山形コミュニティセンターにおいて渋谷光夫氏を講師に、「山形のまちとイザベラ・バード part2」として「バードと[時間・空間]の共有」のテーマでお話をいただきました。昨年11月の「バードの魅力,アルカディア街道の魅力」に続く第2弾の講演です。

お話の中では、当時イザベラ・バードがたどった「越後米沢街道・十三峠」「黒沢峠」「ロマンチック街道（金山町）」などが、現在多くの広報パンフレット等で紹介されていることや、令和2年3月に山形市立病院済生館正面入口に「イザベラ・バード顕彰碑」を設置したとの紹介がありました。この、顕彰碑は渋谷氏が中心となり設置したもので、「イザベラ・バード」が当時山形市を「文明開化最先端のまち」と称賛したことや、

「バードが実際見た旧済生館本館は貴重な歴史的遺産である」などという市民・県民からの声を聴いて山形市に設置したものであるとの説明がありました。

最後に、渋谷氏が「文化財保護活用と景観持続」について、「山形の良さを誇りと自信をもって次世代に繋いでいこう」と話されると、大きな拍手が沸きおこりました。

当日は、雨にもかかわらず45名のご参加をいただきましたが、「街道を是非歩いてみたい」「顕彰碑の価値を知ったので、顕彰碑を訪ねてみたい」などの感想が寄せられました。



< 第2回講座 >

講座2 講演「茂吉が詠んだふるさとの風景、その想い。」

2024年（令和6）11月9日（土）「南山形再発見」講座2として、南山形コミュニティセンターにおいて、斎藤茂吉記念館学芸員の佐藤結子氏を講師に、「茂吉が詠んだふるさとの風景、その想い」と題してお話をいただきました。講座には、南山形地区、中山町や寒河江市から約40名が参加しました。

講演では、茂吉の少年期から壮年期について、「癩癩もちの性格だった」「ヨーロッパ研修中に消失した青山病院の再建に尽力した」ことなどのお話がありました。また、医師と歌人の二刀流だったとの説明には会場から拍手が沸きました。晩年は故郷の山形県金瓶村で疎開生活を送ったことや、南山形にある「松原の不動尊」「金井村誌への序文掲載」「斎藤茂吉文学碑建立（山形市松原）」「蔵王山熊野岳山頂斎藤茂吉歌碑」について触れ、茂吉は故郷を短歌で詠み上げたことが紹介されました。



また、山岳信仰者として、山登りにスーツ姿で出かけていたその想いが写真から伺い知ることができました。歌を詠む他に野菜や庭先の花の絵も描いており、「絵から当時の想いに浸ってみてはどうか」との紹介がありました。

参加者から「斎藤茂吉の最後の歌の推敲課程が知りたい」という質問に対して「展示してある手帳で推敲過程の様子が感じられるかも知れませんが」とのお答えをいただきました。それに対して、受講者からは「記念館で確認してみたい」「南山形地区にある記念碑にも訪ねてみたい」などの意欲的発言があり盛り上がりました。

実践プラン5 「谷柏田植踊」の復活・継承運動

■令和6年度の概況

学生サークル「舞」が結成されてから2024年度（令和6）で9年が経過しました。今年度は、これまでにない公演として、一つは谷柏地区に鎮座する甲箭（こうせん）神社での奉納踊りを行うことができました。もう一つは、福島県会津若松市にある会津大学での公演で、県外での演技披露は初めての体験でした。

■公演活動

- 7月14日（日）谷柏地区「甲箭神社」奉納
- 8月3日（土）谷柏地区「夏祭り」 下谷柏公民館屋外広場
- 9月28日（日）福島県立会津大学 大学内ホール
- 10月13日（日）「東北文教祭」 大学中庭芝生
- 10月26日（土）「南山形地区文化祭」南山形コミュニティーセンター
- 11月10日（金）児童遊戯施設「コパル文化祭」 屋外広場

■所属学生 23人 部長 阿部莉央那(あべりおな)

1. 阿部玖未 (あべくみ)	人間関係学科	4年
2. 伊藤涼々夏 (いとうりりか)	同	4年
3. 岡崎琴美 (おかざきことみ)	同	4年
4. 小坂真輝 (こさかまさき)	同	4年
5. 小嶋百咲 (こじまひさき)	同	4年
6. 小林勇輝 (こばやしゆうき)	同	4年
7. 佐藤愛稀 (さとういつき)	同	4年
8. 菅江愛里菜 (すがえありな)	同	4年
9. 高木穂栞 (たかきほのか)	同	4年
10. 粕谷南菜 (かすやなな)	子ども教育学科	4年
11. 高野永真 (たかのえいしん)	同	4年
12. 高橋七海 (たかはしななみ)	同	4年
13. 阿部莉央那 (あべりおな)	人間関係学科	3年
14. 小川穂乃華 (おがわほのか)	同	3年
15. 森谷彩加 (もりやあやか)	同	3年
16. 吉田土道 (よしだしどう)	同	3年
17. 井上花玲 (いのうえかれん)	人間関係学科	2年
18. 吉田朱那 (よしだあやな)	同	2年
19. 伊藤 樹 (いとうたつき)	同	2年
20. 土田静宮 (つちだしずく)	同	2年
21. 上野裕太 (うえのゆうた)	現代福祉学科	2年
22. 高橋実花 (たかはしみか)	人間関係学科	1年
23. 小関昊太郎 (こせきこうたろう)	同	1年

[顧問：菊地和博・津坂貢政]



東北文教祭



東根市タントクルセンター



南山形地区公演を終えて

■谷柏田植踊保存会(地域在住者) 18人 会長 枝松昭雄

[順不同]

1. 唄:伊藤哲雄・石井慶市・丹野裕志・高瀬勲・金沢英雄
吉田重夫・半田利男
2. 笛:情野卯工門
3. 口上:横沢正巳・枝松昭雄
4. 寄せ太鼓:東海林明美・中村京子・渡辺千矢子・渡辺正江・横沢章子・北城幸子・東海林久美
5. アドバイザー:伊藤香織

今回も「うづぐすえ」第15号をご覧いただきありがとうございました。お問合せの際は右の大学事務局までご連絡下さい。また、本プロジェクトのHPもありますので、PCやスマートフォンからも閲覧することができます。本学HPからもリンク可能です。

<URL: <https://uzugusue.g-tbunkyo.jp/> >

●事務局連絡先

〒990-2316 山形県山形市片谷地515
東北文教大学・南山形地区創生プロジェクト委員会
東北文教大学「未来に伝える山形の宝」事務局
TEL: 023-688-2298